

### 第3学年 理科学習指導略案

教科等	理科	単元名	じしゃくにつけよう	本時	全14時間抜いの2時間目
学級	3年3組	授業者		教室等	3階 3年3組教室

### <本時の指導>

<b>&lt;本時のねらい&gt;</b> 磁石に付くものと付かないものとの違いから、問題を見だし、既習の内容や生活経験を基に、根拠のある予想を発想することができる。	
導 入	<p>主な学習活動【4つの視点】 主な発問:T 予想される児童の反応:C</p> <p>1. 前時を振り返り、棒磁石で遊んだ時に思った疑問から学習問題を見出す。【対話】 T: 前回磁石で遊んだ時に何か気付いたことはありますか。 C: 鉄棒に付いたよ。 C: 体には付かなかったよ。 C: 木には付かなかったな。 T: 磁石に付くものと付かないものではどんなちがいがあるのかな。</p>
	<p>○研究主題にせまる6つの手立て □…指導上の留意点 ☆…評価 ※UD</p> <p>□前時で体験している写真を提示し、磁石に付く物と付かない物があることを思い出させ、問題を見いだせるようにする。</p> <p>○話題設定の工夫 全員が体験活動を通して磁石への興味・関心を高め、そこから生まれた児童の「疑問」や「気付き」を生かしながら、学習問題を設定する。 ※焦点化</p>
展 開	<p>2. 既習事項や生活経験、これまでの知識を踏まえてどんなものが磁石に付くのかについて、予想を立てる。【表現】 C: じしゃくは金ぞくに付くと思う。 C: じしゃくは一部の金ぞくに付くと思う。</p> <p>3. 考えた予想とその根拠を交流する。【対話】 T: 自分と友達の予想を比べながら、交流しましょう。そして、自分の予想がよりよいものになるようにしましょう。 C: 金属でできたものが付くだろう。なぜなら、鉄棒やはさみ、机など金属でできているものに付いたから。 C: 硬いものが磁石に付くだろう。なぜなら、磁石に硬い金具のようなものを近付けた時に付いたから。</p> <p>4. 全体での交流を行い、どんなものが磁石に付くかについての自らの予想を再考する。【対話】 T: 最終予想を立てましょう。</p>
	<p>□予想とその根拠が書けた児童は、教師から助言をもらう。</p> <p>○意図的にグルーピングされた小集団での交流活動の設定 たくさんの立場の考えに触れたり、他者との共通点や相違点を認め合ったりするために、自由に交流する時間を確保する。</p> <p>○交流の目的と視点の明確化 「自分の予想をよりよいものにするため」という目的と、「自分の予想と比べて同じところ、違うところはどこか」、「友だちの考えは自分が納得できるものか」という視点を与える。</p> <p>○話し合いの話題の提示 話し合いの話題「友達の考えを受け止めよう」「友達の考えの良いところを伝えよう」「詳しく知りたいことを質問しよう」を示す。</p> <p>☆磁石に付くものと付かないものについて、既習の内容や生活経験を基に、根拠のある予想を発想し、表現するなどして問題解決している。(ノート、発言)</p>
終 末	<p>5. 学習の振り返りをするとともに、次時に実験方法を考えることを確認し、見通しをもたせる。 T: 今日の学習で立てた予想について、交流を終えて自分の考えがどう変化したかを書きましょう。</p> <p>□児童の発言や振り返りの内容を価値付け、次時への意欲を高める。※焦点化</p>

### 【板書計画】

じしゃくのせいしつ	問題	じしゃくはどのようなものにつくのだろうか。	<p>友達の考えを受け止めよう</p> <p>友達の考えの良いところを伝えよう</p> <p>詳しく知りたいことを質問しよう</p>					
<table border="1"> <tr> <td>鉄棒</td> <td>服</td> <td>ランドセルの金具</td> </tr> <tr> <td>木</td> <td>教室のかべ</td> <td>筆箱</td> </tr> </table>	鉄棒	服		ランドセルの金具	木	教室のかべ	筆箱	予想
鉄棒	服	ランドセルの金具						
木	教室のかべ	筆箱						
じしゃくで遊んだときの様子を想起させまとめる			<p>友達の考えを受け止めよう</p> <p>友達の考えの良いところを伝えよう</p> <p>詳しく知りたいことを質問しよう</p>					

### 【研究主題にせまる6つの手立てとの関連】

(1) 「自分の考えを言葉で表現する」ための手立て

#### 話題設定の工夫

単元の導入時には、児童の共通経験とするため、1時間じっくり磁石に触れさせる時間を設ける。体験をしながら自然と疑問をもてるようにする。

#### 話し合いの話題の提示

話し合いの話題「友達の考えを受け止めよう」「友達の考えのよいところを伝えよう」「詳しく知りたいことを質問しよう」を提示し、自分とは異なる予想や根拠、表現の違いに気付き、考えを深めていけるようにする。

(2) 「学び合う」ための手立て

#### 意図的にグルーピングされた小集団での交流活動の設定

たくさんの立場の考えに触れたり、他者との共通点や相違点を認め合ったりするために、児童同士が自由に交流する時間を確保する。そうすることで、児童自身の「他の考えを知って自分の見方を広げたい」という思いを軸に、より自分の考えを深めたり、広げたりできるようにする。

#### 交流の目的と視点の明確化

「自分の予想をよりよいものにするため」という目的と、「自分の予想と比べて同じところ、違うところはどこか」「友だちの考えは自分が納得できるものか」という視点を与えて交流活動に取り組ませることで、他者の考えとの共通点、相違点を捉えやすくする。